



Three rooms, 1994

Piotr Zamojski

ピョートル・ザモイスキー



Fifth Room, 2000



The location is regarded as a concrete space which constitutes the basis for the development of an abstract space. The concrete features of the space are transformed into an abstract system of interwoven relationships. The work can be perceived as an analogous structure existing alongside the location.

Of particular significance to me are three existential states which are most apparent in the projects: "Woman's Room and Man's Room.Haus Esters". "Room with Gallery" and "Three Rooms". Only a few of the sum of marks derived from the structure are clearly visible. Some of them are temporarily concealed (e.g. in an adjoining room). Lastly, there are also marks, which have not been executed, because there is no material support at the designated spot (e.g. in a doorway). As they are topographical and temporary events, "projects" represent for me a sort of spatio-temporal construct. Corresponding to the above points some of the works have a topical character (those which have been preserved e.g. "Two Windows and Two Walls"), others are things of the past (works which have been painted over) or only exist potentially (those which have not been realized).

The conscious registration of its structure transforms the space, the initial experience of which is undifferentiated into a space to be experienced.

It is not necessary to "understand" the construction of the work. It is important that a form of perception is activated which is the result of a lively process of thought.



Woman's Room and Man's Room, Haus Esters, 1993

場所は、抽象的空間を広げるための基礎を作る実在的空欄として見られる。空間の実在の特徴は絡み合った関係性の抽象的体系へ変容していくことである。作品は、場所に添って存在する類似構造として認識することができる。

私にとって特に重要なのは、作品の中で最も明らかになっている存在を表す3つの状態である。「女の部屋と男の部屋、エステルの部屋」「ギャラリーのある部屋」「3つの部屋」の3つがそうだ。構造を元にする全てのマークの内の2～3は鮮明に見える。一時的に隠れて見えなくなるものもある(例: 出入口) それらは地形学的で一時的なもので、私にしてみれば「プロジェクト」は一種の時空間的な構造物を表現しているといえる。前途した点を合わせて考えてみると、作品のいくつかは特徴的な性質を持っているし(保存されている作品例: 「2つの窓と2つの壁」)、他は過去のものであり(全面に塗られている作品)、ただ存在が可能なだけのもの(それらは良く分からないが)ものもある。

構造を意識的に描くことで空間が変化する。初めに受ける印象は画一的なものであり、ただ空間の中へ入ったような気になる。作品の構成を「理解」する必要はない。生き生きとした思考の過程を積極的に感じる事が重要なのである。

Piotr Zamojski

Born 1963 in Olsztyn/Poland.
Studied in Gdansk, Munich and Düsseldorf

Selected exhibitions

- | | |
|---------|--|
| 1993 | Woman's Room and Man's Room, Haus Esters, Participation in exhibition <i>Wände</i> , Haus Esters, Krefeld |
| 1994 | Three Rooms, Galerie m, Bochum |
| 1995-96 | Two Windows and Two Walls, rooms of Kühle and Mozer, Cologne |
| 1996 | Fivefold Divided and Streight Wall, Westfälischer Kunstverein Munster
Meetingroom & Basement, Sainsbury Centre for Visual Arts and Norwich Gallery, Norwich., Participation in <i>East</i> 1996 |
| 1997 | Four Rooms, Escale, Düsseldorf |
| 1998 | Bootskeller, Pillnitz Castle, Dresden
Two Rooms, Ausstellungsraum Karl-Liebknecht-Str. 26, Leipzig |
| 1999 | Fishmarket, the market, square in Shillong, India |

ピョートル・ザモイスキー

1963年、オルシュティン（ポーランド）に生まれる。グダンスク、ミュンヘン、デュッセルドルフで学ぶ。

個展（抜粋）

- | | |
|----------|--|
| 1993年 | 「紳士淑女の部屋、エステル・ハウス」、 「壁」展への参加作品、エステル・ハウス、クレーフェルト |
| 1994年 | 「3つの部屋」、ギャラリーm、ポーフム |
| 1995~96年 | 「2つの窓と2つの壁」、ロイメ・フォン・キューレ・ウント・モーツァー、ケルン。 |
| 1996年 | 「5分割された、真っ直ぐな壁」、ウエストファーレン芸術協会、ミュンスター。
「ミーティング・ルーム&ベースメント（地下室）」（「イースト（東）1996」への出品作品）、
セインズベリー視覚芸術センターおよびノーウィッチギャラリー、ノーウィッチ。 |
| 1997年 | 「4つの部屋」、ツィマー街8a、デュッセルドルフ。 |
| 1998年 | 「ポートハウス」、ピニッツ城、ドレスデン
「2つの部屋」アウステンスラウム、カールーリーブネヒト通り、
ライブチヒ |
| 1999年 | 「魚市場」、シロンの市場、インド |

SOW

SOWは、3人のアーティストによって1999年に非営利の芸術家団体同士の交流により、それぞれの国のアーティスト自身が積極的に交流を図ることを目的として設立された組織です。

私達は組織同士の交換展の開催や参加はもとより、国内での展覧会の企画、又、作家を志す若いアーティスト達との交流をグループ設立の基本理念としています。特定の展覧会場を持たず、各プロジェクトごとにギャラリーや美術館、その他展覧会開催可能なオルタナティブな空間に働きかけて企画を達成して行きます。

今回プロデュースしたピョートル・ザモイスキーは、現在ドイツ国内はもとよりヨーロッパ各国で積極的に活動を展開しているアーティストで、アーティスト自主企画の国際交流展「パドゥルズ」にリンクし、ドイツ、ライブチヒの組織（アウステンスラウム）と交流することで招待するに至りました。

彼は世界各地でその「場」の文化的記号を読み取り、それを作家の多元的かつ独自の視点から作品化することを試んでいます。彼の思考と表現はドイツの文化的一断面だけではなく我々が世界と関わっていくうえで心強いきっかけを成立させる事になるでしょう。

ピョートル・ザモイスキー展を開催する事は、アートという言葉やイメージを自明なものせず、交流を通して相対化されていくアートと生活、社会、国家など様々な枠組みから捕らえ直すことでアートが共有する意識とその差異を考え直すことに他なりません。このことはアーティストを取り巻く諸制度を企画・空間の両面から再構築すべく、既存の制度の中で疲弊しつつあるアートシーンをアーティスト自らが活性化し、アートが新しい価値を創造していく「場」としてのポジションを獲得するための第一歩になるのではないのでしょうか。

アーティスト—イニシアティブ **SOW**

茂井 健司
近藤 昌美
丹治 嘉彦

Puddles
ARTIST-INITIATIVE LINKS IN 2000

助成：財団法人  野村国際文化財団
協力：秋山画廊